

平成30年度

全国学力・学習状況調査の結果



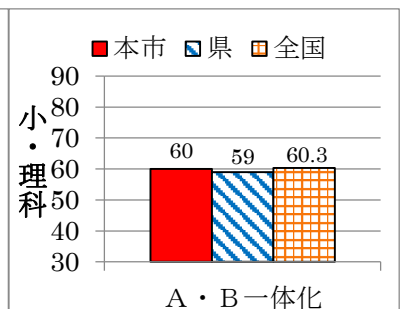
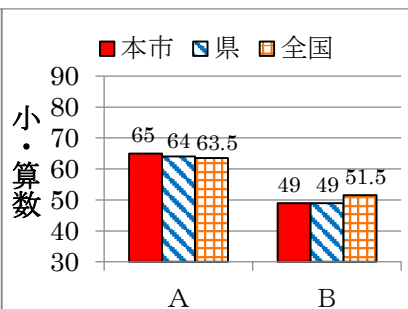
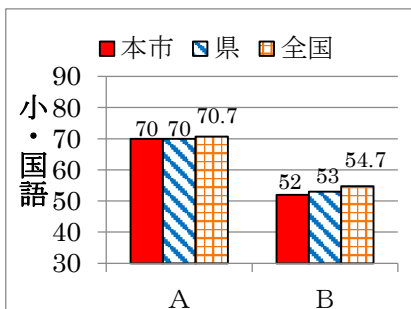
平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果

- 1 実施期日 平成30年4月17日（火）
- 2 実施概要
 - 対象学年 小学校第6学年，中学校第3学年
 - 対象教科 国語，算数・数学，理科
 - 調査内容 「主として『知識』に関する問題(A)」と「主として『活用』に関する問題(B)」(理科は(A)(B)一体化)を出題。併せて「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」を実施。
- 3 結果概要 国の方針により県と市の数値は整数値，全国のみ小数点以下も公表。
理科は3年に一度の実施のため，平成29年度の欄は平成27年度の結果。

(1) 小学校正答率

・ 全ての調査で県と同程度であり，算数Aは全国を上回っています。しかし，国語B，算数Bは全国と比較すると2ポイント以上下回っており，課題が継続しています。

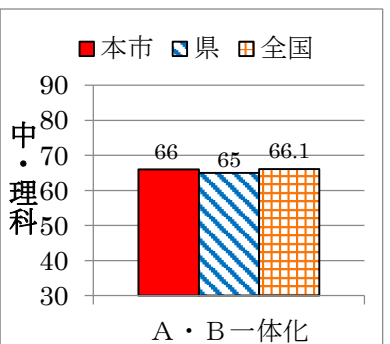
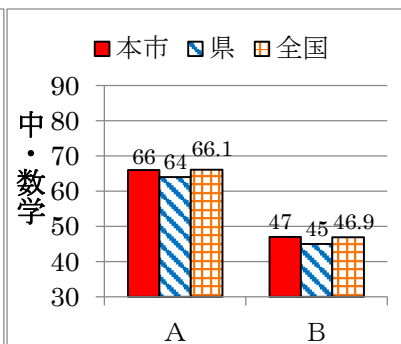
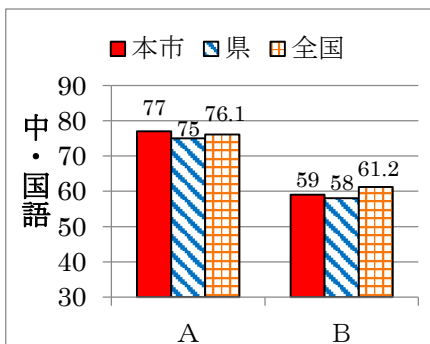
教科	平成30年度			平成29年度			
	本市	県	全国	本市	県	全国	
国語	A	70	70	70.7	76	75	74.8
	B	52	53	54.7	54	55	57.5
算数	A	65	64	63.5	79	79	78.6
	B	49	49	51.5	45	45	45.9
理科	60	59	60.3	(63)	(63)	(60.8)	



(2) 中学校正答率

・ 全ての調査で県を上回り，国語Bを除いて全国と同程度まで改善しています。国語Bについては課題が継続していますが，全国との差は縮まっています。

教科	平成30年度			平成29年度			
	本市	県	全国	本市	県	全国	
国語	A	77	75	76.1	75	75	77.4
	B	59	58	61.2	68	70	72.2
数学	A	66	64	66.1	60	61	64.6
	B	47	45	46.9	46	46	48.1
理科	66	65	66.1	(54)	(52)	(53.0)	



4 学習状況調査結果

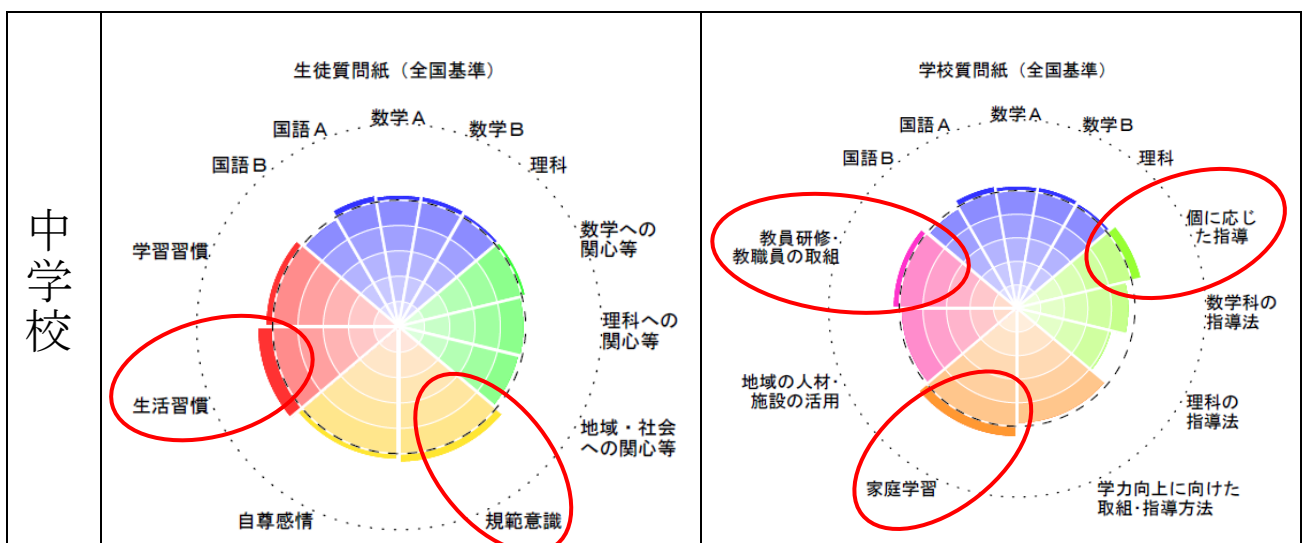
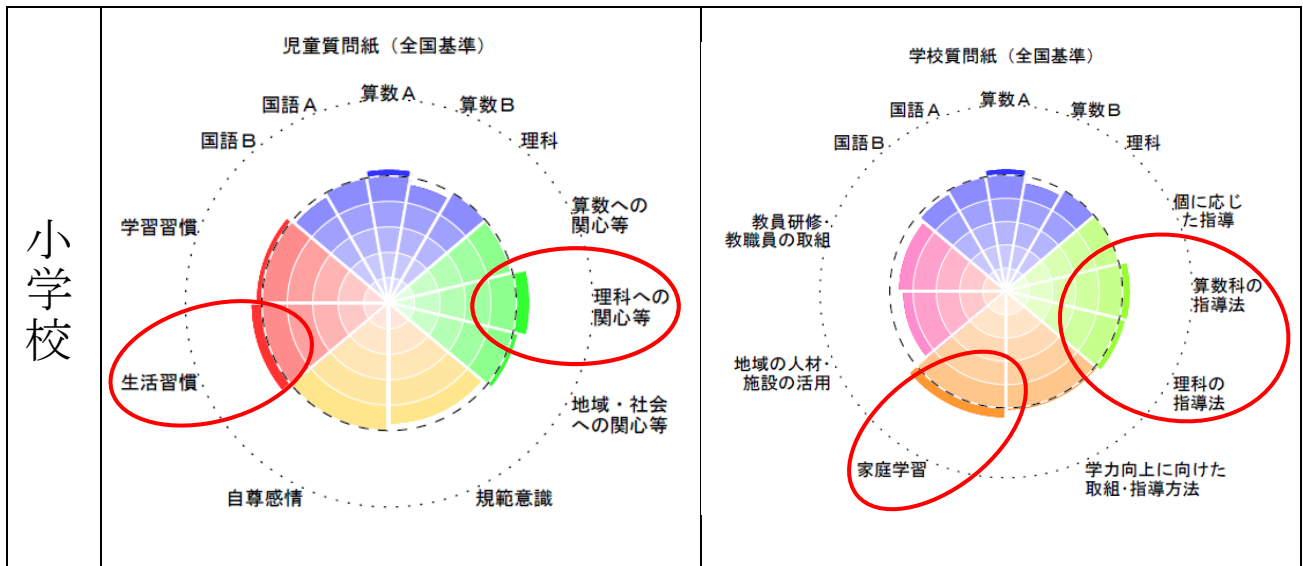
(1) 霧島市全体の傾向

ア 児童生徒質問紙から

- ・ 小・中学校ともに、生活習慣（朝食を毎日食べる，起床・就寝時刻がほぼ決まっている。）が全国の水準を大きく上回っていて，小学校は理科への関心が高く，中学校は規範意識も高くなっています。家庭での学習習慣も全国を上回っていることから，**本市は家庭での過ごし方も望ましい児童生徒が多く，規則正しい生活習慣を実践する真面目な子どもたちの姿**が読みとれます。

イ 学校質問紙から

- ・ 小・中学校ともに，家庭学習（前年度までに，保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行う。家庭学習の課題を与える。）が全国の水準を大きく上回っています。
- ・ 小学校では，算数（実生活との関連を図る授業）・理科（観察や実験をする授業）の指導について，全国の水準をやや上回っています。
- ・ 中学校では，個に応じた指導（習熟の程度に応じた少人数の数学授業）や職員研修（組織的継続的な研修の実施，学校外での研修への積極的参加）が全国の水準をやや上回っています。

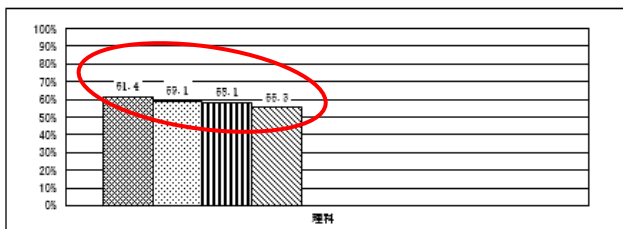
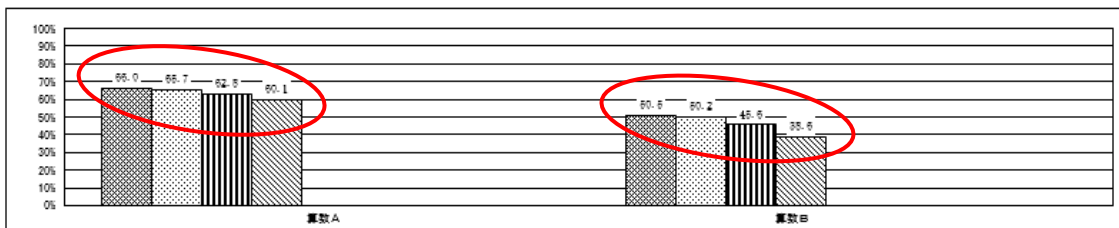
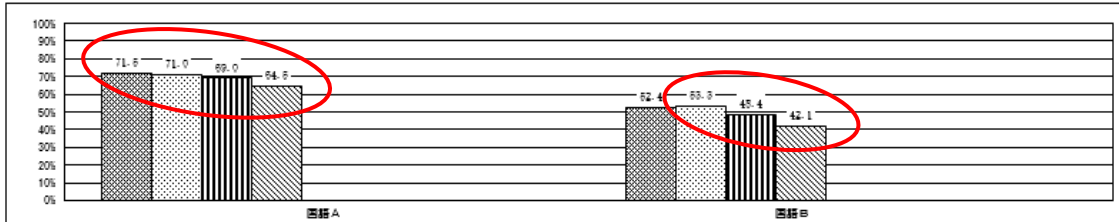


5 学習状況調査結果と学力調査結果の相関について

(1) 学習状況調査の中で、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問結果と学力調査との関係

ア 小学校

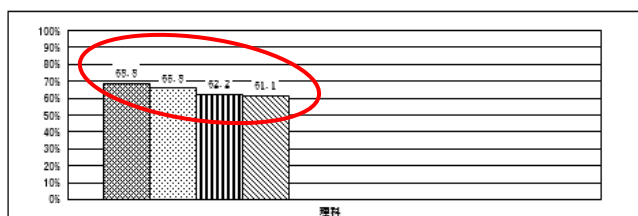
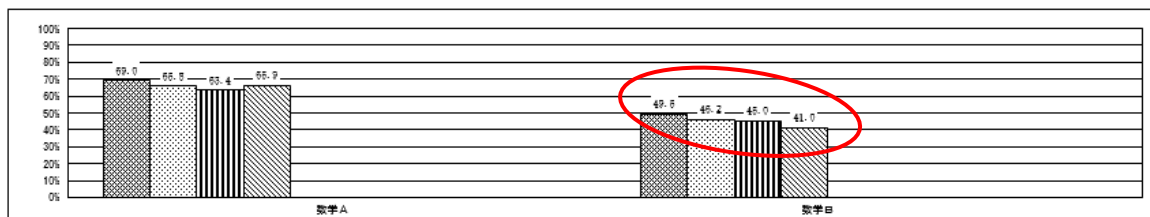
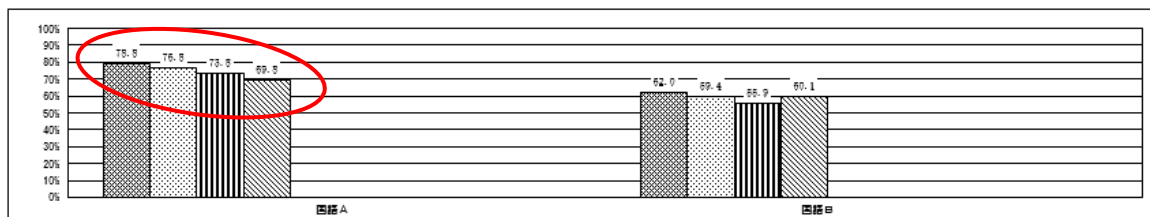
	児童の割合	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
① 当てはまる	33.4	71.5	52.4	66.0	50.5	61.4
② どちらかといえば当てはまる	47.6	71.0	53.3	65.7	50.2	59.1
③ どちらかといえば当てはまらない	14.8	69.0	48.4	62.8	45.6	58.1
④ 当てはまらない	4.3	64.5	42.1	60.1	38.6	55.3



・ 本市の児童は、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」に対して、「当てはまる」と回答した児童ほど、学力調査の正答率が高いことが分かりました。

イ 中学校

	生徒の割合	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
① 当てはまる	32.8	78.8	62.0	69.0	49.5	68.8
② どちらかといえば当てはまる	49.7	76.8	59.4	65.8	46.2	65.8
③ どちらかといえば当てはまらない	14.0	73.8	55.9	63.4	45.0	62.2
④ 当てはまらない	3.6	69.8	60.1	65.9	41.0	61.1

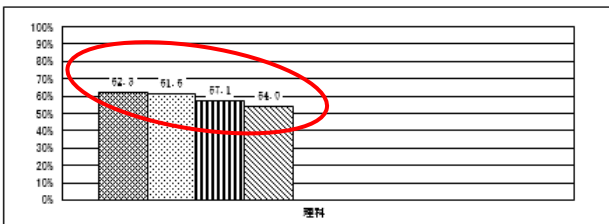
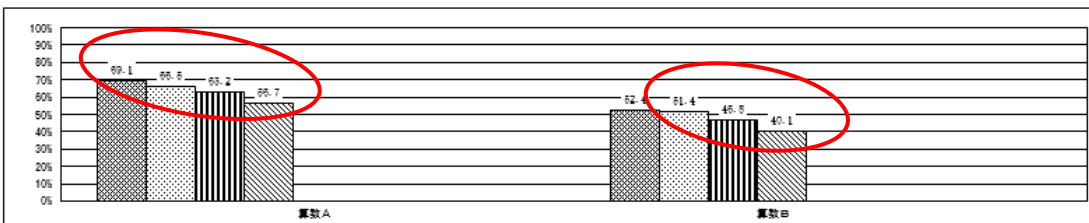
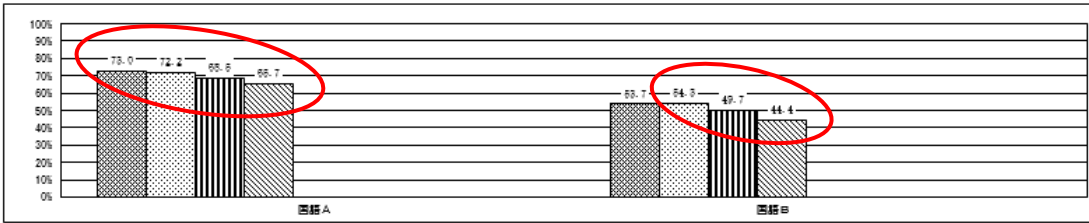


・ 本市の生徒は、国語B・数学Aを除き、「当てはまる」と回答した生徒ほど、学力調査の正答率が高いことが分かりました。

(2) 学習状況調査の中で、「前年度までに、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」の質問結果と学力調査との関係

ア 小学校

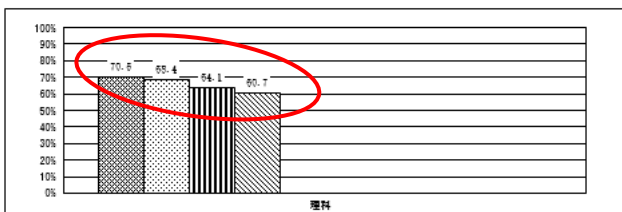
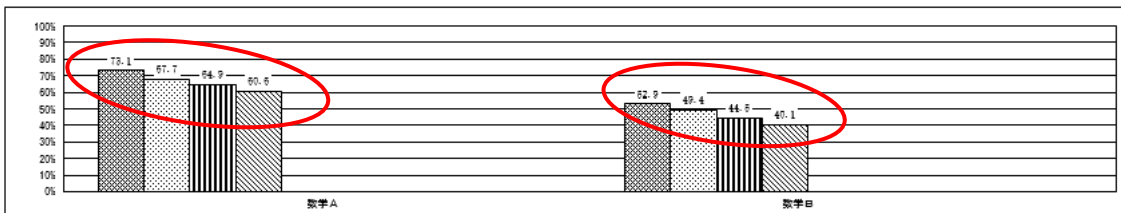
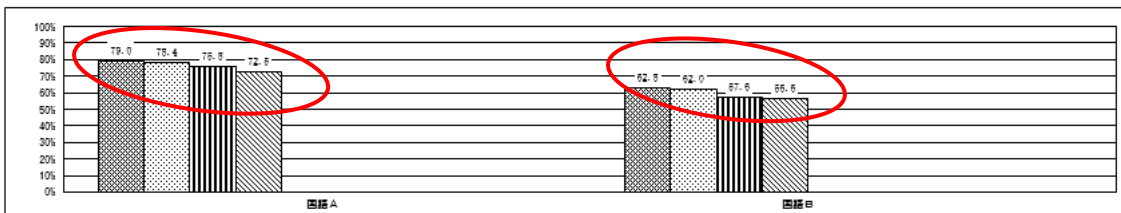
	児童の割合	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
① 当てはまる	20.1	73.0	53.7	69.1	52.4	62.3
② どちらかといえば当てはまる	38.9	72.2	54.3	66.5	51.4	61.6
③ どちらかといえば当てはまらない	32.9	68.5	49.7	63.2	46.8	57.1
④ 当てはまらない	7.7	65.7	44.4	56.7	40.1	54.0



・ 本市の児童は、「前年度までに工夫して発表していたか。」に対して、「当てはまる」と回答した児童ほど、学力調査の正答率が高いことが分かりました。

イ 中学校

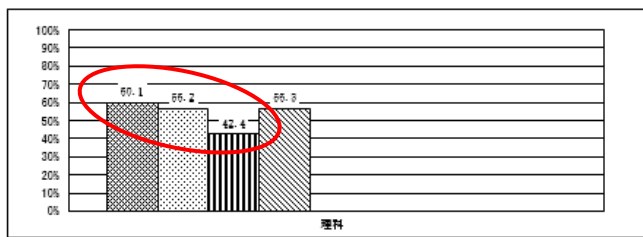
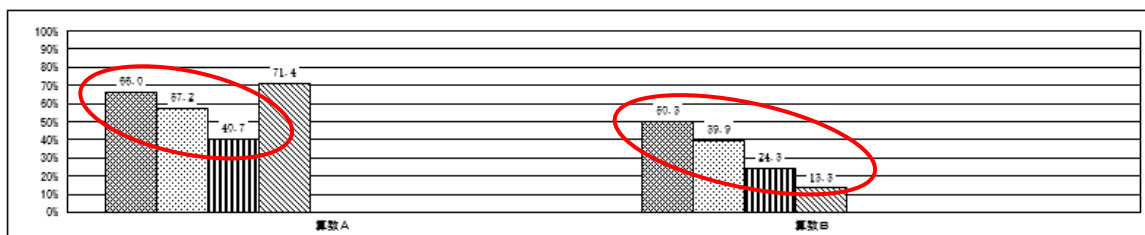
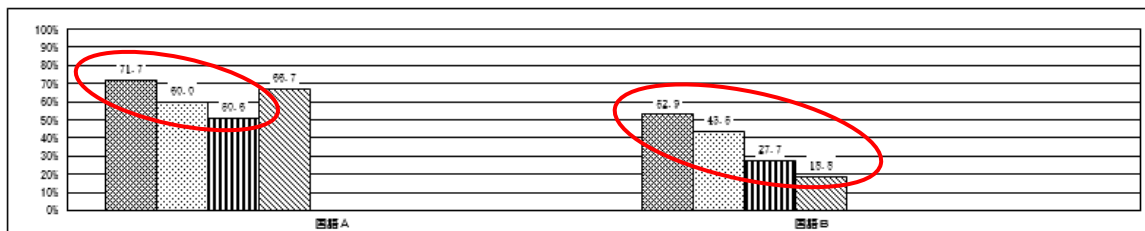
	生徒の割合	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
① 当てはまる	14.4	79.0	62.8	73.1	52.9	70.5
② どちらかといえば当てはまる	35.6	78.4	62.0	67.7	49.4	68.4
③ どちらかといえば当てはまらない	37.4	75.8	57.6	64.9	44.5	64.1
④ 当てはまらない	12.4	72.5	56.6	60.6	40.1	60.7



・ 本市の生徒は、「前年度までに工夫して発表していたか。」に対して、「当てはまる」と回答した生徒ほど、学力調査の正答率が高いことが分かりました。

(3) 学習状況調査の中で、「家で、学校の宿題をしていますか。」の質問結果と学力調査との関係
ア 小学校

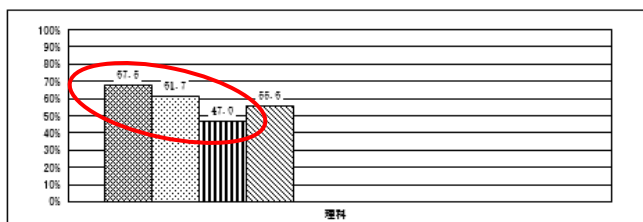
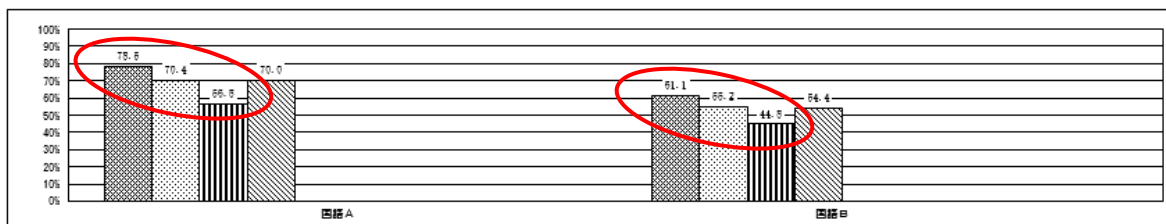
	児童の割合	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
① している。	91.4	71.7	52.9	66.0	50.3	60.1
② どちらかといえばしている。	7.2	60.0	43.5	57.2	39.9	56.2
③ あまりしていない。	1.2	50.6	27.7	40.7	24.3	42.4
④ 全くしていない。	0.3	66.7	18.8	71.4	13.3	56.3



- 本市の児童は、「家で、宿題をしているか。」に対して、「している。」と回答した児童ほど、学力調査の正答率が高いことが分かりました。

イ 中学校

	生徒の割合	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
① している。	82.8	78.5	61.1	68.1	48.8	67.5
② どちらかといえばしている。	13.4	70.4	55.2	61.7	39.8	61.7
③ あまりしていない。	2.8	56.8	44.8	43.9	26.4	47.0
④ 全くしていない。	0.9	70.0	54.4	58.0	37.9	55.6



- 本市の生徒は、「家で、宿題をしているか。」に対して、「している。」と回答した生徒ほど、学力調査の正答率が高いことが分かりました。

5 調査結果のまとめ（課題）

- (1) 「先生からよいところを認めてもらっている」と思っている児童生徒ほど学力調査の正答率が高い相関関係がある一方で、「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に対して「当てはまる」と回答する児童生徒はいずれも全国と同程度であるものの40%未満であり、「ほめる運動」を具体的に一層推進する必要があります。
- (2) 「前年度までに工夫して発表していたか。」の質問に対して、「当てはまる」と回答する児童生徒は、小中とも全国をやや下回っており、どの教科においても相手に分かりやすく説明するにはどうすればよいか考え、発表する機会を増やし、子どもが主体となる場面を確実に設定する必要があります。
- (3) 「家で、宿題をしているか。」の質問に対して、「している」と回答する児童生徒は、小中とも全国を上回っていることが本市の子どもたちのよさといえます。今後は、高校や大学への入試をはじめ、変化の激しい世の中を生き抜く学力を身に付けていくために、与える学習から自ら求める学習へと質の転換を図る必要があります。
- 子どもがじっくり考え、話し合い、発表する時間を十分取り入れた授業づくりを教師が行うとともに、次の授業に子ども全員が意欲的に参加できることねらいとした授業と連動した家庭学習を教師・子ども・保護者の全ての関係者が今まで以上に意識して実践することが求められます。
- (4) 市全体としては学力調査の結果が全国と同程度、または上回る結果もありますが、学校ごとに見てみると結果に差があり、各学校の実態に応じて取り組む必要があります。
- 本市ではこれまでも、諸調査のデータ分析等により自校の課題を把握し、具体策を設定して取り組む「学力向上プラン」を市内全小中学校で実践していますが、より成果を上げるP（plan：計画）→D（do：実行）→C（check：確認・評価）→A（action：改善）サイクルを組織的に行うことが求められます。

【A】 市で共通した取組	1 「ほめる運動」の推進	<p>【児童生徒のよさを認め合う場面の設定】</p> <p>○ 日々の授業において「児童生徒のよさを認め合う場面」を設定し、誰のどのような発言等によって本時の学習内容が分かるようになったのかを発表し合い、また教師も本時の児童生徒のよさを称賛する取組を充実させます。この取組を日常化することで、周りの人から認められ自分が役に立ったという体験を増やし、自己肯定感を高め、自ら学ぶ意欲をもった児童生徒の育成を目指します。</p> <p>【全国学力・学習状況調査結果のよさに着目した職員研修】</p> <p>○ 各学校で全国平均と同程度または上回る結果を「自校のよさ」として着目し、どのような取組が成果を上げているのかを職員全員で自覚し、よさを生かした自校の取組が、さらによりよい実践になるよう工夫・改善していきます。</p> <p>【児童生徒のよい姿に着目した授業参観・授業研究】</p> <p>○ 全職員が児童生徒のよい姿を見つける意識で互いの授業を参観し合い、児童生徒のよい姿やよい姿を引き出すことができた要因について授業後に協議します。また、他教科・他学年の授業においても児童生徒のよい姿が見られるようにするための共通実践事項を決めて組織的に指導力向上を図っていきます。</p>
	2 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業改善	<p>【教師主導の授業から、児童生徒が主体となる場面の意図的設定】</p> <p>○ 児童生徒が主体となる場面を意図的に設定した授業実践を日常化していきます。</p> <p>例) 主体的： 本時の課題を解決するための方法を児童生徒がまず考えて見通しをもたせます。</p> <p>対話的： 話合いの目的を理解し、自分の考えをもってペアやグループで積極的に話合いをさせます。</p> <p>深い学び： 本時の児童生徒のよさを認め合い（上記1と関連）本時に何を身に付けることが出来たのかについて、児童生徒のことばでまとめさせます。</p>
	3 家庭学習の質の改善	<p>【与える学習から自ら求める能動的な学習への質の転換】</p> <p>○ 家庭で学んだことが次の授業の中で生かされ、学びの意欲につながり、話合いの時間を十分確保した深い学びができる（上記2と関連）【授業連動型家庭学習】を積極的に取り入れていきます。</p> <p>※ 市では、全ての小中学校が【授業連動型家庭学習】を共通実践していくために、各校の優れた実践をまとめた家庭学習好事例集の発行を継続し、市全体の質の改善を図っていきます。</p>
【B】 各校の実態に基づいた取組	4 学力向上プランを活用した組織的対応	<p>【一点突破策と実効性のあるPDCAサイクルの確実な実践】</p> <p>○ 諸調査のデータ分析により自校の実態を的確に把握し、実態に基づいた対策を絞り込み（一点突破策）、学期毎に成果を確認し改善する取組を確実に実践します。</p> <p>① 自校のよさを生かし、共通実践事項を焦点化した一点突破策と責任者を明確にした具体策を設定します。〔P〕</p> <p>② 学力向上プランに記載し、全職員で共通実践します。〔D〕</p> <p>③ 学期毎に児童生徒・保護者・職員による学校評価を集計し、数値で成果を見える化し、実態を把握します。〔C〕</p> <p>④ 次学期に向けて実態に即した具体策を再検討し改善します。〔A〕</p>

7 家庭へのお願い

(1) 子どものよさをほめる、温かい声かけで子どもの自己肯定感を高めましょう。

本市の児童生徒は、以下のような項目で全国平均を上回るなど、たくさんのよさをもっています。学校でも日々の授業において、教師が一人一人のよさや可能性を見つけてほめるだけでなく子どもたち同士で認め合うことも学習意欲を向上させる自己肯定感を高める上で重要であると考え、積極的に「ほめる運動」を実践してまいります。

ご家庭においても、お子様の生活習慣や学習習慣、お手伝い等、お子様が毎日できていることを「よくできたね。」「いつもありがとう。」等のほめ言葉にしてたくさん声をかけてください。

学習状況調査において、本市が全国平均を上回る項目

- 将来の夢や目標をもっている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 朝食を毎日食べている。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- 家で、学校の宿題をしている。
- 地域社会でボランティア活動に参加したことがある。

(2) 家庭学習の習慣化に加えて、学力向上に格段に効果のある家庭学習の充実のために、家庭でも温かい支援をお願いします。

本市の児童生徒は、家庭学習をしている割合が全国を上回る一方で、学力調査の活用力を問うB問題の課題が続いています。本市では学力向上のために授業と家庭学習をひとまとめにして、どちらの質の改善も必要不可欠と考え、家庭学習をする本市の子どもたちのよさを学力向上に結びつけるために、授業改善とともに以下の[授業連動型家庭学習]を本市は積極的に推進します。

ご家庭においても、お子様の自主性を尊重しながら、学習の成果や取組の様子を見届け、学習への意欲を高める励ましの言葉やアドバイスをしてください。

<p>[例①] 既習内容想起型</p>	<p>(例) 小学校2年 算数科「かけ算」 授業で「〇こずつ、△こ分」から立式する学習を思い出して、身の回りの生活の中から、「同じ数ずつ」「いくつ分」の場面を探す家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電灯のスイッチ ・テレビのリモコンのスイッチ ・かぜ薬の錠剤 	<p>(効果) 家庭学習で児童一人一人が日常生活場面と関連付けてかけ算の式に合う場面を探しているのので、次の授業では場面を紹介し合い、児童による絵や式に表す活動を十分行い、実用的な乗法のイメージを児童に身に付けさせることができる。</p>
<p>[例②] Myデータ作成型</p>	<p>(例) 小学校5年 算数科「比例」 授業で配布した目盛り付きのテープを用いて、自宅の浴槽に入った水の量と適量まで水をためるのにかった時間との関係を表にまとめる家庭学習</p>	<p>(効果) 家庭学習で児童一人一人が表にまとめているのので、次の授業では、データを見せ合いながら、共通点は何かを考え、話し合う子どもの主体的な学びの時間が生まれ、比例についての理解を深めることができる。</p>
<p>[例③] 一人学び集中型</p>	<p>(例) 中学校2年 英語科「不定詞」 授業で学習した不定詞のモデル文を活用し、「将来の夢」についてのスピーチ原稿の下書きをする家庭学習</p>	<p>(効果) 家庭学習で生徒一人一人が下書きを準備しているのので、次の授業では、グループで教え合いをしながらよりよいスピーチ原稿を完成することができる。</p>